

短報

群馬県におけるカワウの分布と変遷

宮下雄基¹・坂庭浩之²

¹群馬県東部県民局東部県税事務所：太田市西本町60-27 (miyashita_yu@pref.gunma.jp)

²群馬県環境森林部自然環境課：群馬県前橋市大手町1-1-1

要旨：群馬県におけるカワウの生息は1982年に城沼（館林市）において最初の飛来が確認された。それ以降、群馬県内に広く分布するようになり各地にねぐらやコロニーを形成するとともに、内水面漁業において魚類への食害を発生させることから問題となってきた。

本書では、その経過を文献調査および、現地調査により明らかにし変遷を記録しながらその課題を明らかにした。

キーワード：カワウ, *Phalacrocorax carbo*, ねぐら, コロニー, 分布変遷, 群馬県

A change in the geographical distribution of Great Cormorant (*Phalacrocorax carbo*) in Gunma Prefecture

MIYASHITA Yuki¹ and SAKANIWA Hiroyuki²

¹ *Administrative Affairs and Prefectural Taxation Office,
East regional Administration Center*

60-27 Nishihonchou, Ota City, Gunma Prefecture.

² *Bureau of Forestry and Environmental Affairs, Natural Environmental Division
1-1-1 Ohtemachi, Maebashi City, Gunma Prefecture.*

Key Words : *Phalacrocorax carbo*, geographical distribution, roosts, colonies, Gunma Prefecture

はじめに

カワウはユーラシア大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸など広い範囲に分布し、日本でも全国的に分布する魚食性の鳥類である。日本では環境悪化により一時生息数を大幅に減らし、愛知県鶴の山、大分県沖黒島、東京都上野公園不忍池に生息するのみとなった。しかし、1970年代以降、水辺浄化による餌となる魚の増加等の生息環境の改善により、その数が飛躍的に増加した（福田ほか、2001）。近年では、河川の中下流域から山間部などの内陸部にも進出するようになっている（福田ほか、2001）。群馬県では1982年に館林市の城沼等で初めての飛来記録があり（卯木、1985）、その後、飛来記録が増加した（浅川、1998）。

カワウは群れで行動し、特に夜間には群れで休息・睡眠することや、多数の個体が集まって繁殖を行うことが知られている。多数の個体が集まって夜間の休息・睡眠をとる場所をねぐら、多数の個体が集まって密集して巣を造り繁殖する場所をコロニー（集団営巣地）という（日本野鳥の

会、2004）。

ねぐら・コロニーは水辺に接する樹上に形成されることが多く、樹木がカワウの多量の糞により広範囲に渡り枯死したり、水質・土壌汚染や悪臭、景観の悪化等を招くことが問題とされている。また、カワウは魚類を捕食するため、漁協などによって放流されたアユ等の被害が指摘されており、内水面漁業の大きな問題となっている。

カワウは2007年6月に「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」（以下「鳥獣保護法」）の中で狩猟鳥に指定され、狩猟による捕獲が可能となった。また、群馬県では2008年4月から「第10次鳥獣保護事業計画」により、有害鳥獣捕獲（以下「有害捕獲」）の許可対象者の拡大により、カワウの捕獲圧が近年高まっている。

本報告では、群馬県におけるカワウの分布と変遷について報告するとともに、分布に影響を及ぼしうる捕獲についても状況を報告する。

調査方法

・文献調査

カワウの飛来状況及びねぐら・コロニーの状況について、1997年までの記録を卯木（1985）、浅川（1996）、浅川（1998）を整理するとともに、1998年以降の記録を群馬県（自然環境課、蚕糸園芸課：未公表）が所管する行政資料を用いて調べた。

・現地調査

2001年から2008年に飛来数調査を実施。2005年から2008年にねぐら・コロニー調査を実施した。各調査の方法は以下のとおりである。

1) 飛来数調査

調査者 日本野鳥の会群馬県支部（群馬県委託）
 調査時期 2001年から2008年の1月
 調査場所 県内の河川及び湖沼、92地点（表3）

調査方法 各調査地点に調査員を配置し、頭上及び水面上に確認された個体を飛来個体として数えた。調査地点別の飛来数を集計し、県内の飛来数とした。

2) ねぐら・コロニー調査

調査者 県自然環境課、県蚕糸園芸課、日本野鳥の会群馬県支部関係者
 調査時期 2005年から2008年。各年の3月、7月、12月の年3回を基本とした。
 調査場所 県内のねぐら・コロニーの記録がある地点
 調査方法 日没時のねぐら・コロニーの利用羽数を生息数とした。日没1~2時間前のねぐら・コロニーの利用羽数を確認し、その後日没までにねぐら・コロニーに出入りした羽数を集計した。各ねぐら・コロニーの生息数を集計したものを県内の生息数とした。併せて営巣数を記録した。

表1 カワウの飛来記録のある市町村と記録年

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
1 伊勢崎市	■																											
2 桐生市	■																											
3 松井町																												
4 前橋市																												
5 千代田町																												
6 土浦市																												
7 高崎市																												
8 桐生市																												
9 前橋市																												
10 東洋町																												
11 桐生市																												
12 太田市																												
13 三好町																												
14 高崎市																												
15 高崎市																												
16 高崎市																												
17 高崎市																												
18 太田市																												
19 高崎市																												
20 高崎市																												
21 高崎市																												
22 高崎市																												
23 高崎市																												
24 高崎市																												
25 高崎市																												
26 高崎市																												
27 高崎市																												
28 高崎市																												
29 高崎市																												
30 高崎市																												
31 高崎市																												
32 高崎市																												
33 高崎市																												
34 高崎市																												
35 高崎市																												
36 高崎市																												
37 高崎市																												
38 高崎市																												
39 高崎市																												
40 高崎市																												
41 高崎市																												
42 高崎市																												
43 高崎市																												
44 高崎市																												
45 高崎市																												
46 高崎市																												
47 高崎市																												
48 高崎市																												
49 高崎市																												
50 高崎市																												
51 高崎市																												
52 高崎市																												
53 高崎市																												
54 高崎市																												
55 高崎市																												
56 高崎市																												
57 高崎市																												

■...カワウの飛来記録あり
 □...カワウの飛来記録なし

群馬県市町村(2017年)の区分

調査資料 ← 卯木(1985)、浅川(1996)、浅川(1998) 群馬県(自然環境課、蚕糸園芸課：未公表) (1998-2008) →

調査結果

・文献調査

飛来状況（表1）、ねぐら・コロニーの状況（表2、図1）を整理した。なお、市町村区分は旧市町村（70市町村）を用いた。

群馬県における最初の記録は卯木（1985）による1982年の館林市の城沼、富岡市の丹生湖での記録、浅川（1998）による1982年の館林市の城沼、伊勢崎市八斗島の利根川、松井田町の妙義湖の記録である。また、卯木（1985）により「繁殖記録はなく稀に漂鳥として湖沼、池、河川に飛来する。他に鳴沢湖、多々良沼での記録もある。」と当時の状況が記録されている。

1982年から1998年までの生息状況は浅川（1998）により報告されている。その記録によれば、1982年から1988年までは飛来の記録のある年とない年とがあったが、1989年からは毎年カワウが記録されるようになったとある。また、1992年までは、10～6月に飛来していたが、1993年以降は通年にわたり飛来が記録されるようになったとある。

飛来記録のある市町村は、1982年から1992年には9市町村であったが、1997年には27市町村となり、飛来の分布が拡大した（浅川，1998）。2008年には、その数は57市町村となり、分布はさらに広がっている（表1）。

群馬県のねぐらの最初の記録は1997年の粕川村の頭無沼の記録である。また、最初の繁殖の記録は1997年の頭無沼での3巣、1998年の58巣の営巣の記録であり、最初のコロニーの記録となる（浅川，1998）。

また、浅川（1998）によると1998年に頭無沼のねぐらは消失したが、大胡町の千貫沼でねぐらが形成されたことが記録されている。頭無沼のねぐらが消失した理由は追い払いによるものと推測されている。

その後、2000年に大間々町の高津戸ダム周辺、鬼石町の下久保ダム周辺で営巣地が確認され、2001年に富岡市の丹生湖でねぐらが確認されている。2002年には吉井町で営巣地が確認され、2003年には箕郷町の鳴沢湖で営巣地が確認されている（表2）。

2008年までに、ねぐら・コロニーが確認された地点は、12カ所あり、2008年時点では、大胡町の千貫沼、玉村町の利根川の福島橋、鬼石町の神水湖、鬼石町の下久保ダム、

表2 ねぐら・コロニーの記録のある地点と記録年

	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
頭無沼												
千貫沼												
高津戸ダム												
下久保ダム												
丹生湖												
南陽台												
鳴沢湖												
綾戸ダム												
真壁												
福島橋												
平田ダム												
神水湖												

富岡市の丹生湖、箕郷町の鳴沢湖、北橋村の真壁貯水池、沼田市の綾戸ダムの8カ所でねぐらが確認されており、大間々町の高津戸ダム周辺、吉井町南陽台の2カ所でコロニーが確認されている。

ねぐら・コロニーの大半は河川沿いに形成されており、1998年から2005年にかけて河川上流部に分布が拡大した。



図1 カワウのねぐら・コロニーの分布

・現地調査

1) 飛来数調査

飛来数調査の結果（表3）、2001年、2004年、2008年の飛来確認地点における飛来数の状況を示す（図2、3、4）。

県内のカワウの飛来が最多であったのは、2004年の900羽であった。飛来が最も多く確認された地点は館林市の多々良沼であり、2004年に457羽を記録した。飛来が確認された地点1地点あたりの飛来数（平均飛来数）は、2002年が最多であった。飛来確認地点数は2005年、2008年が最多であり、48地点であった。

2001年には、県東部で多数の飛来が確認されているが、2004年、2008年には県西部でも多数の飛来が確認されるようになった。また利根川上流部でも飛来数が増加しており、河川上流部へ分布が広がる傾向が見られた。烏川、鐮川、碓氷川流域の飛来状況に着目すると、2001年には飛来が多かった地点でも10羽程度の飛来が確認されるにすぎなかったが、2004年、2008年には地点によって50羽以上の飛来が確認された。また、利根川上流部に着目すると、2001年には4羽、2004年には1羽の飛来が確認されるにすぎなかったが、2008年には16羽の飛来が確認された。

表3 カワウの飛来数の推移

No	種名(学名)	調査方法	調査年(調査月)							
			2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1	カワウ	目撃	0	0	0	2	0	0	0	0
2	カワウ	目撃	18	0	0	2	2	9	1	0
3	カワウ	目撃	3	1	0	3	0	7	1	0
4	カワウ	目撃	1	0	0	0	0	23	0	0
5	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
6	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	1	1
7	カワウ	目撃	1	0	0	0	0	1	0	5
8	カワウ	目撃	0	0	0	3	0	0	-	-
9	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
10	カワウ	目撃	1	0	0	2	0	1	0	0
11	カワウ	目撃	0	0	-	-	-	-	-	-
12	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
13	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
14	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
15	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
16	カワウ	目撃	25	120	40	111	15	17	76	13
17	カワウ	目撃	4	1	2	2	-	2	1	9
18	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
19	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
20	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
21	カワウ	目撃	1	1	0	1	0	1	1	4
22	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	1	0	0
23	カワウ	目撃	11	7	4	-	2	23	10	20
24	カワウ	目撃	2	1	0	2	2	1	0	4
25	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	1	0	0
26	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	7	5	41
27	カワウ	目撃	5	0	0	5	4	5	0	0
28	カワウ	目撃	8	0	0	7	1	0	3	0
29	カワウ	目撃	11	12	0	1	1	0	13	0
30	カワウ	目撃	7	0	-	10	12	10	7	38
31	カワウ	目撃	0	0	0	1	0	0	0	0
32	カワウ	目撃	12	13	0	1	0	2	2	0
33	カワウ	目撃	5	0	5	1	-	7	4	6
34	カワウ	目撃	11	1	0	3	0	0	1	7
35	カワウ	目撃	5	1	1	0	2	12	6	4
36	カワウ	目撃	1	2	2	1	-	0	0	7
37	カワウ	目撃	7	2	7	-	2	0	2	0
38	カワウ	目撃	0	0	0	0	4	3	4	0
39	カワウ	目撃	1	2	0	2	0	5	5	0
40	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
41	カワウ	目撃	8	0	0	2	0	22	3	0
42	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
43	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
44	カワウ	目撃	19	2	2	0	0	11	20	22
45	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
46	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
47	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
48	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
49	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
50	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
51	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
52	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
53	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
54	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
55	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
56	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
57	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
58	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
59	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
60	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
61	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
62	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
63	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
64	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
65	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
66	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
67	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
68	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
69	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
70	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
71	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
72	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
73	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
74	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
75	カワウ	目撃	1	2	-	1	0	1	0	-
76	カワウ	目撃	13	22	4	0	0	0	7	8
77	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
78	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
79	カワウ	目撃	80	114	40	67	53	74	13	74
80	カワウ	目撃	1	3	8	0	1	2	1	2
81	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
82	カワウ	目撃	2	0	0	0	0	0	1	1
83	カワウ	目撃	-	-	-	-	-	-	-	-
84	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
85	カワウ	目撃	5	1	-	0	0	4	3	4
86	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
87	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
88	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
89	カワウ	目撃	0	0	0	0	0	0	0	0
90	カワウ	目撃	3	36	46	8	0	43	47	40
91	カワウ	目撃	22	26	15	47	13	39	51	68
92	カワウ	目撃	0	1	-	0	0	4	0	0
93	カワウ	目撃	1	0	0	1	0	1	0	0
94	カワウ	目撃	520	628	370	200	620	520	318	128
95	カワウ	目撃	10	28	20	-	0	10	1	48
96	カワウ	目撃	100	101	100	100	100	100	100	100
97	カワウ	目撃	100	100	100	100	100	100	100	100
98	カワウ	目撃	100	100	100	100	100	100	100	100
99	カワウ	目撃	100	100	100	100	100	100	100	100
100	カワウ	目撃	100	100	100	100	100	100	100	100

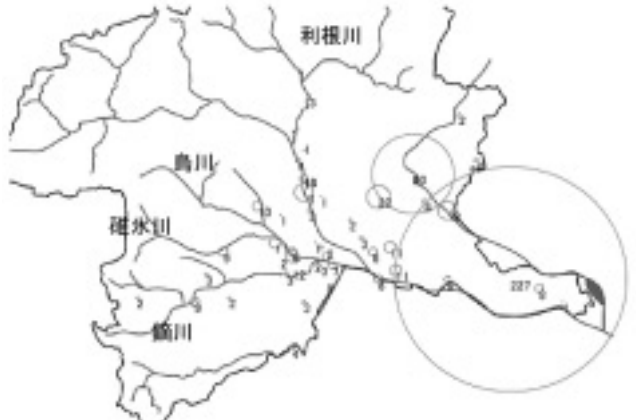


図2 2001年の調査結果



図3 2004年の調査結果

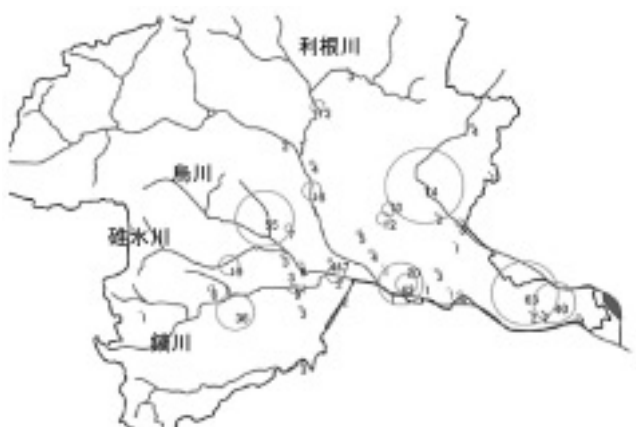


図4 2008年の調査結果

2) ねぐら・コロニー調査

ねぐら・コロニー調査の結果(表4, 5), 県内のカワウの生息数が最多であったのは, 2005年9月の1,085羽であった。カワウの季節的な移動について亀田ほか(2001)が報告するとおり, 群馬県でも季節による生息数の変動があり, 12月から3月にかけて生息数が減少する傾向が見られた。

生息数が最多であったねぐら・コロニーは高津戸ダムであり, 2005年9月に500羽を記録した。千貫沼では3月, 12

月に生息数が減少しているが, これは千貫沼で養殖している鯉の水揚げのため, 沼の水を11月から3月にかけて抜くことが原因であると考えられる。また, 千貫沼で7月に確認されていたカワウは, 生息数の増減や地理的な位置関係から, 沼の水を抜く時期には高津戸ダムのコロニーを利用してのものと推測される。平出ダムでは2005年12月以降, 数羽しか生息が確認されていないことから, ねぐらが消失したのと考えられる。頭無沼では, 2005年, 2007年とカ

調査地点

表4 カワウの生息数

	2005			2006			2007			2008		
	9月	12月	3月	7月	12月	3月	7月	12月	3月	7月	12月	
県内	1083	810	531	447	971	630	737	903	521	1011	878	
高津戸ダム	丹生湖	80	11	-	61	0	0	101	0	0	160	
	頭無沼	150	108	74	-	335	102	19	227	88	140	
	丹生湖	30	25	-	34	0	3	41	0	0	26	
	高津戸ダム	20	15	40	9	37	4	26	27	14	71	
	頭無沼	20	38	-	0	1	29	5	0	0	0	
	丹生湖	70	0	0	7	3	0	1	0	0	0	
真壁貯水池	丹生湖	10	0	-	0	0	-	0	0	47	0	
	高津戸ダム	500	117	355	119	330	321	126	358	115	187	
	鳴沢湖	45	0	65	31	46	59	0	41	38	19	
	高津戸ダム	150	196	-	35	208	112	371	226	191	114	
	真壁貯水池	0	0	0	0	11	0	41	30	42	115	
	丹生湖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	135	

※「-」…未調査

表5 繁殖地における営巣数

	2005			2006			2007			2008		
	9月	12月	3月	7月	12月	3月	7月	12月	3月	7月	12月	
県内	0	16	110	0	4	148	13	13	119	5	7	
高津戸ダム	0	16	106	0	4	68	0	13	26	1	7	
鳴沢湖	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
高津戸ダム	0	0	0	0	2空巣	80	13	2空巣	70	3空巣	0	
真壁貯水池	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	3空巣	
丹生湖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1空巣	

※「-」…未調査

※「空巣」…繁殖が確認されなかった巣。営巣数には含めない

カワウの生息が確認されたが、2006年、2008年にはほとんど確認されなかったことから、ねぐらの形成と消失を繰り返しているものと考えられる。下久保ダムでは2006年、2007年にはカワウの生息が確認されなかったが、2008年7月には確認された。しかし、同年12月には再び確認されなかったことから、頭無沼と同様にねぐらの形成と消失を繰り返しているものと考えられる。

これまでにねぐら・コロニーが消失したと考えられる地点が高津戸ダム、鳴沢湖、吉井町南陽台、真壁貯水池、丹生湖の5カ所あった。また、この5カ所において、2007年3月に148の最多営巣数を記録した。

鳴沢湖、真壁貯水池では営巣数の記録は3から4であり、繁殖が確認されなかった年もあった。丹生湖では空巣が確認されたのみであり繁殖は確認されなかった。そのため、これらの地点ではコロニーは形成されていないと考えられる。

一方、高津戸ダムでは毎年繁殖が確認され、2006年3月には106の営巣、2007年3月には68の営巣、2008年3月には46の営巣が確認された。また、吉井町南陽台では2007年3月に80の営巣、2008年3月に70の営巣が確認されており、

高津戸ダム、吉井町南陽台は安定したコロニーを形成しているものと考えられる。

カワウは通年繁殖が可能な鳥であるが、地域により繁殖期間が異なることが報告されている（福田，2001）。高津戸ダムでは調査を行った3月、7月、12月のいずれの月にも営巣が確認されたことから、幅広い期間で繁殖可能な場所であると考えられる。

カワウの捕獲状況

カワウの捕獲は1998年度から行われており（表6）、1998年度から1999年度、2004年度から2007年度にかけては、釣り針による学術捕獲が行われた。

2000年度には県内20地点で銃器による有害鳥獣捕獲が行われた。捕獲地点にはコロニーのある高津戸ダム周辺が含まれており、51羽が捕獲されている。2001年度から2003年度には高津戸ダム周辺の1地点において銃器による有害捕獲が行われ、2001年度には145羽、2002年度には106羽、2003年度には154羽が捕獲されている。

2007年6月にカワウが鳥獣保護法の狩猟鳥に指定され、2007年度には県内一円で274羽の狩猟による捕獲があった。

2008年度は、銃器による有害捕獲により244羽が捕獲されている。捕獲地点にはコロニーのある吉井町南陽台が含まれており、148羽が捕獲されている。

2007年度、2008年度の捕獲数は200羽を超え、2006年度以前より捕獲数が大幅に増加している。2007年のカワウの狩猟鳥の指定や2008年からの有害捕獲の許可対象者の拡大によるものと推測される。

表6 カワウの捕獲状況

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
合計	9	5	98	145	106	154	14	10	12	278	479
自害	0	0	98	145	106	154	0	0	0	0	244
学術	9	5	0	0	0	0	14	10	12	4	4
空罠	-	-	-	-	-	-	-	-	-	274	235

※2008年度は12月時点の集計値

※年度表記

考 察

日本では、1970年代にカワウの生息数が最も少なくなつた。しかし、1980年代になり、コロニーが増え、生息個体数が増加した。1990年代にはカワウの繁殖が全国各地で確認されるようになり、関東地方でもコロニー数が飛躍的に増加したことが報告されている（福田ほか，2001）。群馬県では1982年に飛来の初記録（卯木，1985）があり、1998年には頭無沼で初めて繁殖が確認された（浅川，1998）。河川沿いに各地でカワウの飛来が確認されるようになり、年とともに河川上流部へと分布が拡大し（図2，3，4）、確認市町村数が増えていった（表1）。

カワウの飛来が一度確認されると、多くの地区ではほぼ毎

年のように飛来が繰り返される。近隣に餌場として利用可能な水域があり、十分なエネルギー供給源となる量の魚類が存在していることが推測される。また、飛翔距離を減らし効率良く活動するため、利用可能な水域の近くには睡眠場所として利用可能なねぐらを形成しているが、年々その場所数が増加する傾向が見られた。また、その分布は河川上流部へと拡大していった(図1)。

近年では2005年9月に最多生息数1,085羽を記録し、2007年3月には最多営巣数148を記録している。また、2008年時点で県内10カ所でねぐら・コロニーが確認され、高津戸ダム、吉井町南陽台では安定したコロニーが形成されている(表4, 5)。

県内ではカワウの目撃数が増加するにつれ、内水面漁業における食害の問題が発生した。1996年にはアユの放流場所においてカワウが多く飛来し、漁業関係者により花火等による追い払いが開始されている。また、1998年には、頭無沼や千貫沼に数百羽のねぐらを確認し(浅川, 1998)、鯉の養魚池での食害が顕著化したため、樹木の伐採や学術捕獲が行われ被害を発生させる鳥として、関係者の間で対策が進められた。2000年から2004年及び2008年には有害捕獲が行われ、2007年には狩猟による捕獲が行われた(表6)。2007年のカワウの狩猟鳥の指定や、2008年からの県内における有害捕獲の許可対象者の拡大が、捕獲を増加させていると推測される。

日本野鳥の会(2004)や山本(2008)により、捕獲等によるねぐら・コロニーの攪乱がカワウを拡散させる可能性があることが報告されている。2000年から2003年にかけてコロニーのある高津戸ダム周辺で有害捕獲が実施されたが、同時期に新たにねぐら・コロニーが県内数カ所で確認

されている。ねぐら・コロニーの形成要因は不明であるが、コロニーでの捕獲がカワウを拡散させた可能性もあり、注目する必要がある。

カワウの保護管理を進める上で、モニタリング調査を継続して実施し生息状況の把握に努めるとともに、捕獲や追い払い等の対策の実施状況も併せて把握し、広域的な視点をもって対応していくことが求められる。

謝 辞

本データの収集に御協力をいただいた関係者のみなさまに、感謝申し上げます。

引用文献

- 浅川千佳夫(1996):群馬県のカワウ。群馬の自然(1996夏)。群馬県自然保護連盟。p.3-4。
- 浅川千佳夫(1998):群馬県におけるカワウの生息状況。Field Biologist 8: 42-46。
- 福田道雄(2001):日本におけるカワウの繁殖生態。日本鳥学会誌 51(2): 116-121。
- 福田道雄・成末雅恵・加藤七枝(2001):日本におけるカワウの生息状況の変遷。日本鳥学会誌51(4): 4-11。
- 亀田佳代子・松原健司・水谷広・山田佳裕(2001):日本におけるカワウの食性と採食場所選択。日本鳥学会誌 51(1): 12-28。
- 日本野鳥の会(編)(2004):特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(カワウ編)環境省。140pp。
- 卯木達朗(1985):群馬県の鳥類。群馬県動物誌。群馬県動物誌編集委員会。p.105-131。
- 山本麻希(2008):カワウってどんな鳥。全国内水面漁業協同組合連合会